

LCCM住宅研究開発委員会 構法技術部会の検討内容

構法技術部会

部会長 清家剛(東京大学大学院准教授)

部会長補佐 兼松学(東京理科大学講師)

1. 構法技術部会の概要

LCCM住宅を実現するための構法技術のあり方を検討し、具体的な技術開発を目指す。そのテーマは主として以下の3つについて検討する。

- ①建設時のCO₂排出量削減技術の
調査・開発・普及
- ②運用時のCO₂削減に関わる構法技術の
調査・開発・普及
- ③改修技術の調査・開発・普及

2. 部会の構成員

部会長	清家剛(東京大学大学院)
部会長補佐	兼松学(東京理科大学)
委員	秋元孝之(芝浦工業大学)
委員	小山明男(明治大学)
委員	名取発(東洋大学)
委員	中野淳太(東海大学)
委員	古賀純子(建築研究所)
委員	植本敬大(国土技術政策総合研究所)

3. 構法技術部会の概要

①建設時のCO2排出量削減技術の調査・開発・普及

LCCM住宅では、建設時のCO2排出量が少ないほどカーボンマイナスのコンセプトを早期に実現できる。そのために建設時のCO2排出量を削減するための材料選択や、リユース・リサイクル技術のあり方について検討する。

②運用時のCO2削減に関わる構法技術の調査・開発・普及

LCCM住宅実現のためには、設備機器だけでなく、外皮や開口部にかかわる可変型の技術などが求められる。これら各種構法技術について検討する。

③改修技術の調査・開発・普及

既存住宅に対しても、LCCM住宅のコンセプトの実現に資するための改修技術を検討する。

4. 技術のデータベース化による普及

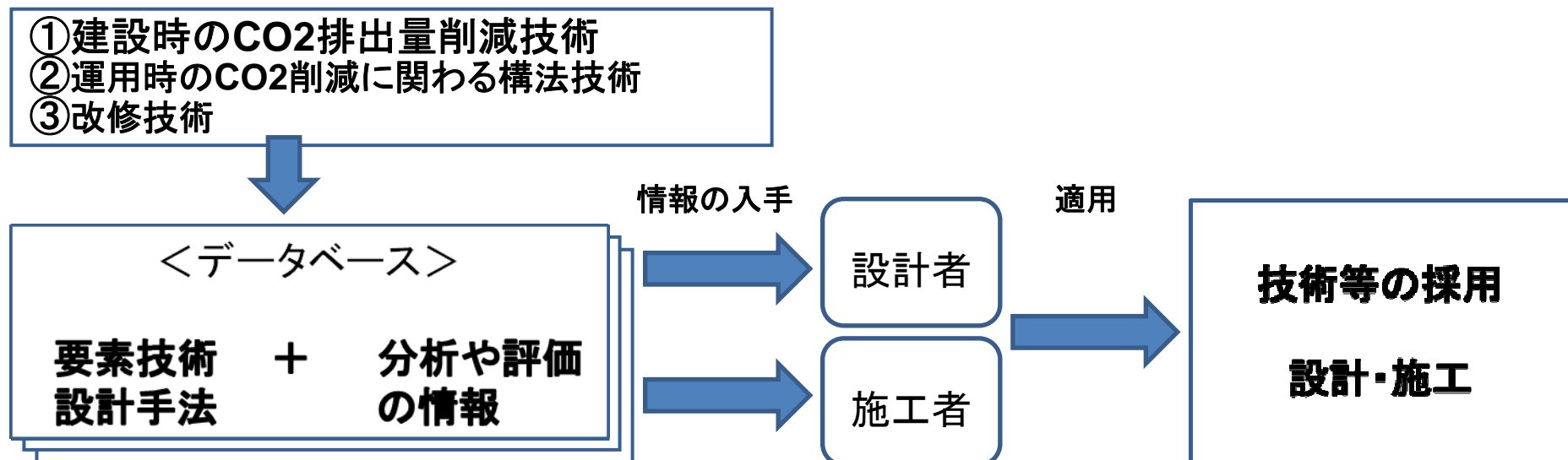
- ・LCCM住宅をサポートする具体的な技術情報のデータの整備
- ・省エネ・創エネに関わる技術を、設計・構法・材料・設備の視点からまとめる。

- ①既存技術を整理してLCCM住宅へどの程度貢献できるかを判断できる資料を作成する
 - ・LCCO₂評価を実施する際必要なデータと評価方法を示す
- ②先導的技術を整理することでLCCM住宅の実現性を示す
 - ・現在の我が国の先導的技術の整理を行い、DB化をする際のひな形を示す

→データベース化を目指す

データベースの利用イメージ

- 収集・開発した技術のデータベース化
 - － 省エネ・創エネ設計手法、省エネ・創エネ技術のDB化
 - － データベースを活用しやすくするための、情報の付加



5. 構法技術部会の研究の進め方

- (1) 基本情報の収集、事例分析
- (2) 具体的な構法開発の検討と課題の洗出し
- (3) 構法技術開発テーマと技術選択課題の整理
- (4) 必要な技術開発テーマの重点的な研究
- (5) データベース、技術マニュアルなどの整備